畠山重忠の墓・館跡（大里郡川本町）

右手は調査隊の車

「畠山重忠公史跡公園　川本町」とある

「源平盛衰記」に記された一ノ谷合戦鵯越の有名な逸話に基づく、鎌倉武士の鑑と謳われる愛馬三日月を担いだ畠山重忠の勇姿

正面入口に廻る

「畠山重忠公墓」とある

正面に見えるのは五輪塔の覆屋

「埼玉県指定史跡　畠山重忠公墓　並　館跡」とある

献奉

畠山重忠公の墓

所在地 大里郡川本町大字畠山

鎌倉時代の関東武士を代表する武将である畠山重忠公は、長寛二年（一一六四年）秩父庄司重能の二男として、現在のこの地の畠山館に生まれ幼名を氏王丸と言い、後に畠山庄司次郎重忠となった。

剛勇にして文武両道にすぐれ、源頼朝に仕えて礼節の誉れ高く県北一帯の支配のみならず、伊勢国沼田御厨（三重県）奥州葛岡（岩手県）の地頭職を兼ね、鎌倉武士の鑑として尊敬されたが、頼朝なきあと北条氏に謀られて、元久二年（一二〇五年）六月二十二日に二俣川にて一族とともに討たれた。時に重忠四十二歳、子重秀は二十三歳であった。

この畠山館跡には、重忠公主従の墓として六基の五輪塔がある。

また、館跡には嘉元二年（一三〇四年）の紀年号のある百回忌供養の板石塔婆、芭蕉句碑や畑和（元埼玉県知事）作詞による重忠節の歌碑などがあり、館の東北方には重忠生湯の井戸などもあって、通称「重忠様」と呼ばれて慕われ、現在は、この地一帯が重忠公史跡公園として整備されている。

平成十一年九月

埼玉県

この覆屋の中に畠山重忠とその家臣の墓といわれている五輪塔（6基）がある

正面が畠山重忠の墓といわれている五輪塔

重忠の五輪塔が一際高く大きい

埼玉県指定
史跡

畠山重忠墓

五輪塔六基　大正十三年三月三十一日指定

鎌倉時代の関東の代表的武将畠山重忠（秩父氏の出）は長寛二年（西暦一一六四年）父重能の二男としてこの地畠山館に生まれ幼名を氏王丸といい、長じて畠山庄司次郎重忠となる。剛勇にして文武両道に勝れ源頼朝に仕えて礼節の誉れ高く県北一帯の支配のみならず伊勢国沼田御厨の地頭職を兼ねた鎌倉武士の鏡として尊敬されたが頼朝なきあと讒言により北条氏のため横浜市二俣川にて一族と共に討たれた。時に重忠四十二才　子重秀は二十三才であった。

後にこの地畠山館跡に重忠主従六基の五輪塔を建て墓碑としてまつった

この地の東北方に重忠生湯の井戸がある。

また北方三百メートルの荒川の峡崖に鶯の瀬という浅瀬がある

ここは重忠が岡部六弥太（榛沢成清の説もある）のもとに行き帰路雨に逢い洪水で渡れずいるとき鶯が鳴いて浅瀬を教えてくれたという所である

そのときによんだと伝えられる

時ならぬ岸のおささのうぐいすは
あさせたづねて鳴き渡らん

との歌碑がある

昭和四十五年十一月三日

埼玉県教育委員会
川本町教育委員会
畠山重忠公史跡保存会

川本町指定文化財
板石塔婆
（昭和三十九・八・三十一指定）
主尊は三弁宝珠阿弥陀一尊・種子（キリーク）
記年銘嘉元二年甲辰（一三〇四年）卯月（四月）九日
周辺に彫られている文字は、梵字の光明真言である。
畠山重忠公が元久二年（一二〇五年）六月二十二日、横浜二股川で戦死の後、百年忌に当たって供養のため建立されたものと伝えられる。
川本町教育委員会

四角の台石の上に「空・風・火・水・土」の石が五段に積み重ねられた五輪塔様式の墓

畠山重忠の百年忌（1304年）に建立されたと伝えられる板石塔婆（板碑）

重忠の父、畠山重能の墓と伝えられる

→

↑

川本町指定文化財
畠山庄司重能の墓
（昭和三十六・十一・三指定）
重忠公の父重能の墓は、重忠墓の東南、椎ノ木の下にある自然石と伝わる。
重忠公の祖先は秩父権守重綱以来秩父郡にあって、代々武蔵の総検行職を司どり、重能の代に秩父郡吉田町から、川本町畠山に居を移し、畠山庄司となり畠山姓を名乗った。
川本町教育委員会

この土盛りも畠山重忠の館の周囲に廻らされていた土塁跡という

右側が館内

右側が館内

左側が館内

芭蕉句碑

重忠節の碑 （作：畑和 元埼玉県知事）/国は 武蔵の 畠山　　武者と生まれて 描く虹　剛勇かおる 重忠に　いざ鎌倉の ときいたる

畠山重忠ゆかりの石

畠山重忠ゆかりの伽羅の木

畠山重忠公没後八百年を記念して手植えされたしだれ桜

畠山重忠公没後八百年の慰霊碑とある

畠山重忠公史蹟保存碑とある

武蔵武士の第一人者である畠山重忠は渋沢栄一、塙保己一と並び「埼玉の三大偉人」だそうです。

この川本町の畠山館で育った重忠は後に嵐山の菅谷館に移り住んだといいます。（菅谷館については既報告書参照）

また、近くには菅谷館と都幾川を挟んで対峙する大蔵館がありましたが、これについても既報告済みです。

そんな畠山重忠の本物の大鎧（国宝）が武蔵御嶽神社の宝物殿に奉納されているわけですが、これについても大東文化大学のフィールドスタディーで報告させていただきましたのでご参照ください。

年表 畠山重忠

長寛2年（1164年）	畠山館で、畠山庄司重能（しげよし）と三浦義明の娘の間に生まれる。	桓武平氏畠山氏
治承4年（1180年）	**源頼朝**、石橋山に挙兵。父不在の重忠は、平氏側につき、源氏に組する同族の三浦氏と戦い、その居城衣笠城（神奈川県横須賀市）を攻め、外祖父の三浦義明を戦死に追い込む。	頼朝挙兵
同年	源頼朝、**千葉常胤**等にむかえられ、武蔵に攻め入る。重忠、八幡太郎義家より賜った家宝の白旗を持って帰参する。	
寿永元年（1182年）	父重能と叔父の小山田別当有重、平氏に従い木曾義仲の軍と戦い奮闘するも敗れ、平家都落ちする。	源平合戦
寿永3年（1184年）	源義経・範頼の木曾義仲追討の先陣となり**宇治川の先陣争い**で、剛勇ぶりを発揮。義仲軍を破り、後白河法皇に拝謁する。	
同年	源義経に従い、平氏討伐にむかい、**一の谷合戦**の**鵯越（ひよどりごえ）の逆落し**では、自分の馬	

	の鵯越(ひよどりごえ)の逆落しでは、自分の馬を背負って斜面を降る。	
文治元年 (1185年)	源義経に従い、**屋島合戦**・**壇ノ浦合戦**に参戦し、平氏を滅亡させる。	
文治3年 (1187年)	重忠の代官が伊勢の支配地にて、詐欺・横領をはたらき、重忠は自ら食を絶つ。許された後も自邸にて謹慎する。 梶原景時の讒言により、重忠の行為は反逆の徴とされ、自ら鎌倉に赴き疑いをはらす。	清廉潔白
文治5年 (1189年)	頼朝、義経をかくまう奥州の藤原氏討伐に出陣。重忠は名誉の先鋒、300騎の郎党のうち、半数以上を失うほどの奮闘をする。	
正治元年 (1199年)	頼朝死に際し、頼家の将来を重忠に託す。	
元久2年 (1205年)	頼朝亡きあと実権を握っていた北條時政にとって邪魔な存在になった重忠。鶴ヶ峯で鎌倉方と戦い亡くなる。	鶴ヶ峯

インターネットより

お気に入り
熊野神社
みいずが原公園
関越道
深谷市
彩甲斐街道
140
熊谷市役
熊谷駅
押切橋
熊谷大橋
IC
花園
407
江南行政センター
東武東上線
県立嵐山郷
武蔵丘陵森林公園
(C)ZENRIN DataCom CO.,LTD.(C)ZENRIN CO.,LTD.

お気に入り
北根
菅沼
川本明戸
田中
押切橋
140
鹿島古墳群
諏訪神社
本田
福寺
黒田
畠山重忠史跡公園
深谷市
太平洋C&アソシエイツ
江南コース
セキチュー
川本南小
畠山
白草台
清水畜産
(C)ZENRIN DataCom CO.,LTD.(C)ZENRIN CO.,LTD.